



北国の唄



## より地域に密着した医療を目指して



特定医療法人共和会 理事長  
共和病院 院長 山本 直彦

新年、明けましておめでとうございます。

昨年に引き続き、今年もまた、感染対策に気が抜けない状況で新年を迎えました。昨年も新型コロナウイルスに振り回された1年で、初めて病棟内クラスターと言われるような感染状況に至りました。何人もの陽性患者さんを限られたスタッフでケアしなければならない事態となりましたが、大きなクラスターに至らず、比較的小規模に抑えられたのは、部署を越えて協力しあった関係部署の職員や何より現場のスタッフの逞しい努力の賜物と思っています。また、これまでの当法人の感染対策に対して入院や入所の延期、面会制限等にご理解とご協力をいただいた患者様やご家族に感謝いたします。

こうしたコロナ禍にあって、共和会では明るいニュースもありました。昨年3月1日より大府市の循環バス「ふれあいバス・中央コース」が共和病院の玄関前を巡回するようになりました。これまで近隣駅と共和病院との送迎バスはありましたが、本数も少なく、患者様アンケートでも公共バスの乗り入れを望む声が多くあり、ようやく念願が叶ったと関係者様に感謝しております。

乗り入れの初日には岡村市長はじめ行政の方もお越し下さり、その様子は中日新聞や知多メディアスにより、地域に発信されました。今では病院利用者のみならず、近隣住民の方のご利用も多くなり、職員からの発案でバス停にベンチも設置しました。また、待ち時間には病院に隣接するコミュニティスペースである「アトリエ」のご利用もいただければと思います。病院を利用されない方々も巡回バスの窓越しに病院が見えることで、地域住民の方々と病院との距離がさらに縮まり、利便性が高まる事によって、地域医療が充実することが期待されます。

新型コロナウイルス感染が今年終焉を迎えることは難しく、社会はアフターコロナではなく、ウィズコロナという新しいステージに入っていくことでしょう。今後、共和会では感染対策をとりつつ、コロナと上手く付き合いながらコロナ以前に行われてきた様々な活動を再開し、職員間のコミュニケーションを深め、地域住民の方々との連携をさらに推進し、特定医療法人として地域医療に貢献していきたいと思っています。今年も引き続きご指導をよろしくお願いいたします。



日本医療機能評価機構  
認定シンボルマーク

# TOPICS・EVENT

## 第23回 共和病院地域医療フォーラムを開催して

2022年10月22日(土)に第23回共和病院地域医療フォーラムを開催しました。今回のテーマは『地域でつなぐACP』～残りの人生をどのように生き、最期を迎えたいですか?～です。

ACP(アドバンス・ケア・プランニング)とは、人生の最終段階に向けた医療・ケアに関する話し合い(愛称:人生会議)のことを指します。当院では3年前から内科看護師とソーシャルワーカーで打ち合わせを始め、昨年からは精神科看護師が参加し、今年度から「ACP推進チーム」という名称になりました。今年度からリハビリテーション課や薬剤課、栄養課に加え、同法人内から訪問看護ステーションソレイユも参加し、多職種でACPを推進していくための体制作りをしています。当院としてもACPは重要な位置づけとなっています。

前回の地域医療フォーラムは、コロナ禍の影響で一年延期しオンラインで開催しました。第23回は新型コロナウイルス第7波の感染拡大の終息の目処が立たず、今回もオンライン開催となるのか戸惑いながら準備を進めていく状況が続きましたが、何とか座席数を減らし感染対策を行いながら、対面式でフォーラムを開催することが出来ました。

第1部は、国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部医長の西川満則先生による『地域でつなぐアドバンス・ケア・プランニング』の講演がありました。

私たちは将来のケアについて問われた時、胃瘻や人工呼吸器の装着など、遠い将来の最期の医療ケアを想像しがちとなります。しかし、現在の医療ケアと遠い将来の医療ケアの間には、直近の医療ケアが存在します。食事療法や薬物療法、リハビリテーションなど、ACPっぽくはないものの、『多くの人が望むケア』というものがあります。人生の物語の中には様々な思いのピースが存在します。家族に負担をかけたくな

いという思いの価値観のピースや、リハビリを頑張ってたまた自由に外出したいという目標のピース、何かあれば家族に任せたいという代弁者のピース、様々な思いをつなぎ合わせていく作業が必要となります。医療選択の意思決定・実現には、このピースが効いてきます。このため、将来のことも大事だけれど、まずは今のことをやろう。多くのピースを集めよう。将来の医療選択も大事だけれど、生活にも焦点をあてようとお話されました。

第2部は、当院の社会福祉士の稲田、大府市役所福祉部高齢障がい支援課の佐野様、訪問看護ステーションソレイユ所長の内田による実践報告がありました。

稲田からは、内科療養病棟で看取ったケース(本人の言葉から意志決定する家族)について報告しました。ご本人の意志を尊重しようとするご家族の背中を押してあげるといふACP推進チームの介入について話しました。佐野様からは、ACPに関する行政の支援についてのお話がありました。大府市では今年度から、成年後見制度の中核機関が設置されています。大府市独自のエンディングノート『さくらノート』についての紹介もありました。内田からは、「自宅～病院で最期を迎えたケース～他職種のかかわりを通して～」を報告しました。がんの進行と共に麻痺が進行し、役割が喪失したと感じていた方に、ご家族へサプライズプレゼントなどを一緒に協力して行なった事例で、『思いを繋ぐ』重要性を話しました。



第3部のシンポジウムでは、当院副院長の松下を座長とし、演者と会場の方々も含めて情報共有の難しさやチーム作りについて活発な意見交換が行なわれました。

参加された方からは、「共和会の職員がACPに取り組む事例を聞いて嬉しかった。こういう事例の積み重ねが法人の理念を作り上げていくと感じた。」「人生の最終段階を考えるそれぞれの立場での発表内容で、ご本人だけでなく家族へのアプローチも大事だと分かった。」「日頃行なっている事のメモ(ピース)を多くして皆で共有する事が大事であると再確認が出来た。」等の感想を頂きました。

今回はコロナ禍の影響もあり、外部から参加される方が少なかったですが、当院では地域の保健・福祉・医療の関係者の交流と情報交換の場を作りたいという思いから、このフォーラムを開催しています。新型コロナウイルス感染が終息し、より多くの地域の関係者の方々と再び交流する場となることを願っています。

フォーラム実行委員長 近藤 礼子



西川 満則 様



稲田 朋也



佐野 隆造 様



内田 恵美

### プログラム

#### 第1部 講演 (60分)

講師

西川 満則 様

(国立長寿医療研究センター  
緩和ケア診療部医長)

#### 第2部 「地域活動報告/パネルディスカッション」(100分)

医療現場 共和病院 地域調整支援部 社会福祉士

行政支援 大府市 福祉部高齢障がい支援課 高齢福祉係

在宅支援 共和会 訪問看護ステーション ソレイユ 所長 看護師

座長 松下 直美 (共和病院 副院長)

稲田 朋也

佐野 隆造 様

内田 恵美

共和病院には、患者様のご病状に合わせた最適な治療が受けられるよう、様々な機能の病棟を6つ備えています。この新春号より、毎号それぞれの特色を紹介していきます。

## A-3病棟

A-3病棟は、精神科救急急性期医療入院料病棟（45病床）です。看護師22名、クラーク1名、精神保健福祉士3名、作業療法士1名の合計27人が所属しています。病棟理念の「患者様に寄り添う看護を提供します」をもとに、患者様の自由、希望、尊厳を大切に安全に入院生活が送れることが出来るように支援します。病棟の強みは、精神保健福祉士と作業療法士が常時同じフロアにいて、タイムリーな意見交換や、情報交換ができることと、早期に多職種協働で患者様に寄り添うことが出来る事です。取り組みを強化していることとして、最適な療養環境をつくることを目標としています。常に清潔で整理された療養環境が提供できるよう患者様と関わりを通じて環境整備を積極的に行なってきました。今年4年目を迎えた新棟では、「キレイですね」と患者様が声を掛けてくださいます。今後も患者様の満足が得られるようにしていきます。

その他、余暇活動として今年から取り組んでいるプログラムがあります。病棟看護師が中心となり、毎月1回季節を楽しむ行事を始めました。患者様のニーズを伺って作業療法士と相談しながら催し物を決定します。コロナの影響で毎月行う事が出来ておりませんが、感染対策を十分に行いながら11月は焼きいも大会を行いました。行事を通じての患者様への関わりは、多職種協働で行う事により患者様の「そのひとらしさ」が見えてきます。その人らしさが存分に引き出せるような入院生活での関わりを通じ、支援につなげていきたいと思えます。



病棟責任者 山口 淳一

## 「リカバリー」を支える

「リカバリー」とは、病気による制限があっても充実した人生を送ること、人生の新しい意味や目的を見つける事を意味する言葉で、それを支える事こそが私たちが目指すべき医療の形だと考えています。

リカバリー支援委員会は、そんな「リカバリー」の志向を、当法人内でさらに浸透させていくことを目的とした委員会です。毎月事例を持ち寄りリカバリー志向に基づいた話し合いを続けつつ、全職員向けに勉強会を開催するなどの活動を行なっています。

最近でも「リカバリー」を感じる機会がありました。私が勤務している慢性期病棟では、日々を彩り、充実した生活を目指しレクリエーション活動に力を入れています。その中で今秋、院内の多目的ホールを貸し切り演奏会を開催しました。ある患者様は小学校の頃習っていたピアノに再チャレンジし、また別の患者様は、スタッフとバンドを組み「ライ

ブがしたい」という希望を叶えました。お二方とも私たちが想像していた以上のパフォーマンスを発揮され、会場は感動に包まれました。涙するスタッフもいたほどです。

「それが退院に繋がるのか」「その人の目指す人生に繋がるのか」と言われると、それは分かりません。しかし、あの日あの時、誰よりも輝いていた患者様と、それを支え続けてきたスタッフの姿は、関わった全ての人々の人生の中で大きな意味を持つと確信しています。

私達は、こういった日々の関わりの中で、共に悩み、共に喜び、共に感動を分かち合えるような存在でありたいと願い、この活動を続けていきます。

リカバリー支援委員会 委員長  
看護師 丹羽 俊樹



### 編集後記



広報誌WA！の誌面は、その年の風水ラッキーカラーで作成しています。ご存知でしたか？2023年のラッキーカラーはグリーン・オレンジだそうです。よって今年のWA！はグリーンでお送りします。グリーンは風水で「健康と若返り」を象徴する色です

が、「負けない体力を作る力が強力」という意味もあるそうです。まだまだコロナ対策が必要な中、今年はインフルエンザ流行も要注意という情報も聞きます。「負けない体力」を意識して健康に、あわよくば若返りも！と1年欲張ってみるのも楽しそうですね。

広報委員会 奥山 晶子



共和会理念

『優しい医療・楽しい職場』

私たちが目指す『優しい医療』とは

- まごころをこめてやすらぎと癒しの提供
- あなたの安心と希望ある地域生活の支援
- それぞれの専門性を活かした  
最良の医療・介護サービスの提供

私たちが目指す『楽しい職場』とは

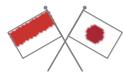
- 職員のチームワークと創造性が  
高められる職場
- 職員のレベルアップと仕事の充実が  
感じられる職場
- 職員の満足が皆様へ反映される職場

基本方針

～当院をご利用の皆様へ～

わたしたちは、利用者の皆様が安全かつ納得のいく医療を受けていただくことを目指し、それぞれの尊厳を大切に、思いやりのある医療を提供します。さらに、地域関係機関との密接な関係を保ち、地域の医療水準の向上に努めます。

1. あなたは、個人的な背景の違いや病気の性質などにかかわらず、必要な医療を受けることができます。
2. あなたは、医療の内容、その危険性および回復の可能性についてあなたが理解できる言葉で説明を受け、それを十分納得して同意したのちに、医療を受けることができます。ただし、必要に応じて主治医の判断によってご家族、代理の方にお話をする場合もあります。
3. あなたは、今受けている治療、処置、検査、看護・介護、食事その他についてご自分の希望を申し出ることができます。また、他の医療機関に転院したい場合は、必要な情報を提供致します。
4. あなたの医療上の個人情報は保護されます。
5. あなたの社会でよりよい生活が提供されるよう、地域関係機関との連携を図ります。



技能実習生をご紹介します

当院では、2020年からインドネシアより技能実習生を受け入れはじめました。2021年はコロナ禍により見送られましたが、2022年は6月から、C-2病棟にフランディスマンさん、アイヌンアニサプトリさんの2名を迎え入れ、共に介護職として勤務しています。



C-2病棟の病棟責任者・スタッフと一緒に  
(中央:アイヌンアニサプトリさん、右隣:フランディスマンさん)

介護業務を学び実践するだけでなく、知識と技術習得の為の勉強も働きながら日々行なっております。

お二人とも真面目で明るく、患者様にも丁寧なケアと接遇が行えており、こちらが見習わなければと思うほど良い方々です。

12月に実施された技能実習生初級試験と日本語試験に向けて、合格できるようC-2病棟では技能試験の勉強会を行い、同法人内の職員が講師となって日本語試験の勉強会をそれぞれ勤務日に行いました。良い結果を迎えられるよう頑張っていたきたいです。

介護課 内科係長 檜崎 龍



日本語試験の勉強会は  
毎週少しずつ学びました。



当法人の加藤会長から、これから日本で頑張っていくお二人に自転車を贈呈しました。「買い物が楽になります!」と喜んでいただけました。



特定医療法人 共和会

共和病院

愛知県大府市梶田町2-123

診療科目

内科・消化器内科・呼吸器内科・神経内科  
精神科・心療内科・循環器内科・肛門外科  
放射線科・リハビリテーション科・歯科

TEL.0562-46-2222(代)

URL <http://www.kyowa.or.jp/>

★ラジオ番組★

毎月 第2月曜日19:00～19:30

MID-FM 76.1

ラジオパーソナリティー  
共和病院 副院長 松下 直美

こころの病を持たれている方をはじめとする皆さまに  
温かいメッセージをお送りします。是非お聞かせください。

おもいやり共和の  
キラキラチアナイト



当院HPから過去の放送分も聴くことができます。

お知らせ

3月4日(土)第14回 共和会研究発表会を開催します。

詳細が決まりしだい当法人HP等でお知らせします。